

水稻品種「出羽きらり」の生産状況について

令和7年2月10日
農業技術環境課

1 品種特性（平成26年7月4日品種登録）

- （1）出穂期は「はえぬき」より1日早い中生の晩。
- （2）稈長は「ひとめぼれ」並の中稈、耐倒伏性は「ひとめぼれ」より強い「中」。
- （3）いもち病抵抗性は、葉いもちは「やや強」、穂いもちは「極強」。
- （4）耐冷性は「強」、穂発芽性は「やや易」。
- （5）玄米千粒重は「はえぬき」より重く、収量性は「はえぬき」より優る。
- （6）工業技術センターにおける酒造適性評価の結果、淡麗な酒質となり、様々なタイプの酒に対応可能。



「出羽きらり」の稲姿

2 生産振興の経緯

- （1）穂いもち抵抗性が極強、また胴割粒の発生が少ないことから、酒造用掛米として評価が高く、淡麗な酒質となることから、酒造業界のニーズが高かった。
- （2）多収であることから、酒造用掛米に加えて加工用米として米菓等の需要拡大も期待され、平成22年に認定品種として採用された。その後、平成27年には平成30年の生産数量目標の配分中止を見据えた加工用米の需要拡大への期待から、優良品種に採用された。
- （3）加工用米、特に酒造用掛米として作付面積は増加し、平成27年に206haとなったものの、その後減少し、令和6年は38haとなっている。

3 「出羽きらり」の生産状況

一定の需要はあるものの、作付面積は減少傾向である。

優良品種の作付面積の推移（ha）

品種	平成27年	令和6年
出羽きらり	206	38
ひとめぼれ	6,249	3,514
コシヒカリ	4,336	1,848
あきたこまち	2,333	837